SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

日本語初中級の理系大学院留学生のキャリア支援の研究：高度外国人材活用に向けて

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ライアン, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000326

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０４６８０

研究課題名（和文）日本語初中級の理系大学院留学生のキャリア支援の研究 -高度外国人材活用に向けて-

研究課題名（英文）Study of career support for International STEM postgraduate students in English-medium instruction courses in Japan

研究代表者
ライアン　優子（Ryan, Yuko）

静岡大学・国際連携推進機構・准教授

研究者番号：４０６１５３４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、理系大学院修士課程の日本語初中級留学生の進路希望、就職活動状況等の解明と、同留学生を対象とする日本語教育、キャリア教育・就職支援の実践研究を行った。調査結果から、研究対象群の進路希望は日本就職と博士進学に大別されること、日本語学習の継続度に対し来日時の日本語レベルと日本語科目の履修開始時期の影響が示唆されること、企業との接点形成において大学の役割が大きいことが明らかになった。実践研究では、日本語教育とキャリア教育の融合、英語によるキャリア教育・ガイダンス、産学官連携による企業訪問・交流会・インターンシップ、渡日前の日本語教育・キャリアガイダンスの事例を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
イノベーションや競争力強化への寄与が期待される理系大学院修士留学生の中で、就職弱者である英語プログラム生の進路選択や就職活動の状況、日本語学習の特徴を明らかにし、同対象への教育と支援の実践例を提示することにより、政府の留学生の就職促進施策の取組状況や課題を明らかにし、政策的示唆を示した。

研究成果の概要（英文）：The project aimed to explore ways to facilitate the employment of international students enrolled in Science, Technology, Engineering, and Mathematics (STEM) Master's degree programs taught in English (ETPs), who possess elementary to intermediate proficiency in the Japanese language. The project consisted of practice-based research and surveys. The practice-based research was conducted through a government-funded program aimed at enhancing the employment of international students, and it included career-related learning and business communication in Japanese, career education courses and guidance, visits to companies, networking events, and internships, all fostered through an academic, industry, and government alliance. The survey research used primary data to elucidate the career aspirations and job-seeking activities of the target cohort, while nationwide survey results were utilized to understand the macro trends of international student enrollment in degree programs in Japan.

研究分野：教育社会学

キーワード：留学生　キャリア教育　日本語教育　就職支援　理工系　高度外国人材　日本就職　高等教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

(1) 研究開始当初の背景

日本政府は、国際的競争力を高めるために優秀な外国人材を呼び込み活用することを国家戦略の重要な一翼と位置付け、「ニッポン一億総活躍プラン」（2016）では「留学生の国内での就職率を現状 3 割から 5 割に」することが目標に掲げられた。一方、教育政策としては、2000 年代後半からの文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」等を通して大学教育の英語化が進み、全国で 50 校以上が英語で学位取得が可能なプログラム（以下、英語プログラム）が開講された。中でも世界の留学生市場において成長が見込まれる大学院の理系を中心に英語プログラムの導入が進んでいる。理系の大学院には日本のイノベーションや競争力の強化に寄与する専門人材が多数在籍するが、英語プログラムの留学生となると日本就職において日本語力の低さが基本的な課題となりがちで、国の進める留学生政策と、日本語で働ける外国人材を求める企業の間にミスマッチが起こっている。こうした課題が顕在化する一方で、往来の留学生の就職支援の調査・研究は主に、日本語で学位を取得する日本語上級の留学生を対象としているため、日本語力が限定的で就職活動に困難を抱える留学生への支援は、「学生の日本語能力の問題」とされ、その状況や具体的な支援の方策を明らかにした研究は少なかった。

(2) 研究の目的

本研究は、留学生自身の日本語能力の問題とされてきた日本語初中級留学生の就職難を、留学生・大学・企業・自治体が関わる社会問題と捉え、企業の採用ニーズの高い理系大学院修士課程の留学生に焦点をあて、就職活動状況の実態の解明をする。また、日本語教育、キャリア教育・支援との関連性の検証を通して、企業と留学生の接点形成、効果的な教育・支援策の検討を行い、外国人高度人材の活用促進を目指す。

(3) 研究の方法

本研究の手法は、主に調査研究と実践研究に分かれ、調査研究は対象を(a)理系修士課程英語プログラムの留学生と、(b)日本で働く元卒業生の外国人社会人とし、アンケート調査とインタビュー調査を行った。

(a)理系修士課程英語プログラムの留学生を対象としたアンケート調査では、研究者が所属する大学で、対象学生の卒業 2 か月前に英語・日本語併記の調査票を用いて実施し、就職活動環境、活動歴、結果を尋ねた。さらにアンケート回答者から抽出した協力者に留学から就職までの過程に関する聞き取りを主に対面・一部オンラインで行った。

(b)日本で働く元卒業生の外国人社会人を対象とした調査では、理系修士課程英語プログラムの卒業生以外に、比較対象として、博士・学士課程卒者、日本語で学ぶ学位プログラム卒者も調査の対象とし、便宜的抽出法で協力者を募った。インタビュー協力者には事前にアンケート調査を行い、日本の大学在籍中の生活、及び日本語資格の取得状況、就職活動の方法、新人研修の有無、就職後の課題、職場での外国人社員を対象とした支援の有無等を尋ねた。インタビュー調査では、事前アンケートの回答をもとに、主にオンライン、一部対面で、日本での留学から就職、就職後の状況に関する聞き取りを、各協力者につき 1 時間程度行った。インタビュー言語は、協力者の希望により英語か日本語を使用した。

実践研究では、研究者が所属する大学における留学生就職促進プログラム事業（2017 年度～2021 年度）、留学生就職促進教育プログラム事業(2022 年度~)の実施を通し、日本語教育、キャリア教育、就職支援活動を行った。キャリア教育・就職支援の主な内容は、英語による

キャリア教育・ガイダンス、インターンシップ参加支援、留学生向け合同企業説明会、企業見学ツアー、OB/OG 交流会等である。また、留学生就職促進事業は大学・自治体・企業の連携体制により実施しているため、同事業を通して、理系修士課程英語プログラムの留学生の就職の課題や状況について産官の関係者からヒアリングを行った。

日本語教育に関連する実践研究は、主に日本語教員とキャリア教員の連携による日本語教育内でのキャリア教育の実践、渡日前の日本語教育等で、加えて研究対象群の日本語学習状況の調査を行った。上記に加えて、全国の修士留学生の日本語力に関連する就職課題を把握するため、日本学生支援機構が実施した留学生を対象とした各種調査の結果を入手し統計分析を行った。

(4) 研究成果

本研究成果のうち、データ分析、及び結果の公表を終えた主な項目は以下である。

① 進路希望の傾向

2016 年から 2018 年に行った、研究者が所属する大学の理系修士課程英語プログラムの日本語初中級の留学生を対象にした進路調査では、年度によって比率は若干異なるが、総じて７割程度の留学生が、博士進学か就職をして日本に残ることを希望していた。また、日本学生支援機構(JASSO)が全国の留学生を対象に 2015 年に行った私費外国人留学生生活実態調査の結果に見る修士課程に在籍する日本語初中級者の進路希望は、日本進学希望が 40%、日本就職希望が 31%と上記の大学での調査と類似の結果となった。これにより、理系修士課程英語プログラムの在籍者の多数が、進学もしくは就職で日本に残ること、日本でキャリアを築くことを希望しているという状況が、特定の大学における調査、全国規模の調査のいずれでも確認された。また、全国調査データを用いた日本語上級者との比較では、日本語初中級者には進学希望の割合が高いという傾向が確認された。

② 日本語学習の特徴と課題

研究者が所属する大学の理系修士課程英語プログラム留学生の日本語学習について、主に下記の特徴と課題が確認された。尚、これらは特定の大学の留学生を対象とした調査の分析結果であるため、サンプリングの偏りをふまえて解釈する必要がある。また、結果の一般化にあたっては、下記を仮説とし対象を広げた調査による検証が必要である。

- 日本語授業を履修する学生のうち、レベルが低い授業（特に入門レベル）の履修者ほど、授業の修了（単位取得）率が低い。
- 入学直後の第一学期に履修した日本語授業を修了（単位取得）しない場合、その後、日本語学習を継続する率が低い。これらの学生は、ひらがな・カタカナの読み書きを習得しない状況が続くことが多い。
- 入学までに日本語学習をしており、入学時にある程度の日本語力があった学生は、在籍中の日本語学習の継続率が高い。

③ 日本語教育におけるキャリア教育の実践

日本語教育内でのキャリア教育の実践として、日本語科目の授業内容に、地域の経済に関する講義、OB/OG 交流会、企業交流会への参加を組み込んだ。理系修士課程英語プログラム生を対象とした実践の一例が、企業交流会でのプレゼンテーションを最終課題とした中級レベルの日本語科目授業である。この授業実践事例の効果として、日本語学習面では、学

習者が日本語を使うことへの前向きな姿勢を持つ、就職に向けた日本語の学習意欲を維持しやすくなる等がみられた。キャリア教育面では、学習者が企業交流会で接点のあった企業でのインターンシップ参加の機会を得る、日本でのキャリア形成を具体的に意識する機会となる等の効果が見られた。
日本語教員とキャリア教員による実践の省察では、日本語教育の環境は留学生にとって心理的な障壁が低く、不安なく自分のキャリアについて考えられる場であること、また、就職、進学、日本か母国か第三国かという多様な進路の選択肢について、留学生同士が学び、気づきを得るという点で有効性が高いことが確認された。

④　キャリア教育・ガイダンス

正課内の取組として、理系修士課程英語プログラムの第一学期にキャリア教育科目を開講し、日本の産業、企業、ビジネス事例について学ぶ機会を設けた。同科目内に卒業後の進路に関する講義を組み込むことで、留学生が早期に日本の就職活動・採用制度の特徴、日本語学習の重要性等を学ぶ機会を形成した。

就職活動に向けた早めの準備を促すため、英語によるキャリアガイダンスを、一部、自治体の就職支援組織から講師を招いて実施した。また、早めに日本語学習を開始し、入学直後に日本語科目を履修する留学生を増やすために、渡日前にオンラインによる日本語教育を実施した。その授業の後の時間を利用し、オンラインによるキャリアガイダンスも行った。これらのガイダンスでは、理系修士課程英語プログラム留学生の２大就職希望である、日本における博士進学と就職ではするべき準備が異なること、日本の労働市場における修士卒と博士卒の就職機会、キャリア選択肢の違い等についての理解を促した。

⑤　企業と留学生の接点形成

日本語初中級の理系修士課程英語プログラム留学生は、日本語で情報が得られないため、就職に関して得られる情報の絶対量が少ないという状況にいる。そのため、日本語力が高くない留学生でも参加できる就職支援イベントを英語で広報すると参加者が増える傾向であった。イベントの開催場所では学内が最も参加者を集めやすい。こうした状況を踏まえて、自治体関係団体との連携による企業との交流会、大学主催の合同企業説明会、インターンシップマッチング会等をキャンパス内で実施した。こうしたイベント等は、日本語初中級の理系修士課程留学生が就職活動や各企業での就業に求められる日本語力を認識し、企業がこうした留学生の就職難の状況と、彼らへの採用方法や採用後の日本語の学習への配慮の要について理解する機会となった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 Yuko Ryan	４．巻 1
２．論文標題 Malaysian students' study and post-graduation careers in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Conference Proceedings: The Joint Virtual conference of AHRD -ARACD 2021	６．最初と最後の頁 28-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木加奈子・袴田麻里・野口直子	４．巻 3
２．論文標題 キャリア教育と日本語教育の融合による可能性を考える -「SCDP共通プログラム」と日本語科目」の連携の試みから -	５．発行年 2021年
３．雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	６．最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鈴木加奈子・袴田麻里	４．巻 2
２．論文標題 ふじのくに留学生就職促進プログラム「SCDP共通プログラム」～キャリア教育と日本語教育の融合を目指して～	５．発行年 2020年
３．雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	６．最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 袴田麻里、ライアン優子、原芳久	４．巻 9
２．論文標題 地域志向のグローバル人材育成プログラム「静岡大学アジアブリッジプログラム」 -成果と課題-	５．発行年 2019年
３．雑誌名 留学交流	６．最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ライアン優子	4．巻 1
2．論文標題 日本語初中級の理系修士課程留学生の進路希望傾向	5．発行年 2019年
3．雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	6．最初と最後の頁 71-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 袴田麻里・鈴木加奈子	4．巻 31
2．論文標題 日本語教育と就職支援の連携	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本語教育連絡会議論文集	6．最初と最後の頁 138-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 袴田麻里	4．巻 1
2．論文標題 進路選択につながる日本語力	5．発行年 2019年
3．雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	6．最初と最後の頁 138-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ライアン優子	4．巻 12
2．論文標題 修士課程の英語プログラムに在籍する留学生を対象とした進路希望調査と支援体制構築の取組　Survey on career path preference for international students on STEM English taught Master's degree programs	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学国際交流センター紀要	6．最初と最後の頁 37 - 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 袴田麻里	４．巻 30
２．論文標題 日本企業から内定を得た留学生の就職に対する意識 ３月卒業生と９月卒業生の比較から	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本語教育連絡会議論文集	６．最初と最後の頁 132-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　4件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Yuko Ryan
２．発表標題 Malaysian students' study and post-graduation careers in Japan
３．学会等名 The Joint Virtual conference of AHRD -ARACD 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 留学生のキャリア教育
３．学会等名 日本キャリア教育学会 関東地区部会2021年度第4回研修会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 袴田麻里
２．発表標題 留学生のキャリア支援
３．学会等名 国立大学法人留学生指導研究協議会 分科会D（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 袴田麻里
２．発表標題 同じ地域で学ぶ大学生 - 留学生と日本人学生
３．学会等名 独立行政法人日本学生支援機構留学生地域交流シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 袴田麻里・鈴木加奈子
２．発表標題 ビジネス日本語の取り組み～キャリア教育と日本語教育の融合を目指して～
３．学会等名 文部科学省「留学生就職促進プログラム」シンポジウム「留学生の就職のためにいま大学が取り組めることー留学生就職促進プログラムの成果から－」
４．発表年 2020年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 International student migration research in Japan
３．学会等名 日本比較教育学会第55回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 International STEM student mobility and post-study career pathways in Japan
３．学会等名 世界教育学会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 日本の大学を卒業した留学生のキャリアパス -タイ人学生を例に-
３．学会等名 チェンマイ大学日本研究センター（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライアン 優子
２．発表標題 Exploring factors influencing career outcomes of international STEM master’s students of English-taught programs in Japan
３．学会等名 International Association for Vocational and Educational Guidance(IAEVG)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 Key elements of International student employability - the implications for Japan -
３．学会等名 日本キャリア教育学会第41回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 The Role of Japanese STEM Graduate Schools in Attracting Highly Skilled Foreign Talent
３．学会等名 日本比較教育学会第54回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 Access to career guidance for international STEM students in Japan
３．学会等名 International Association for Educational and Vocational Guidance (IAEVG) 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 Job seeking by international STEM master’s students in Japan -A survey of students enrolled in English-taught programmes-
３．学会等名 キャリア教育学会第40回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 袴田麻里
２．発表標題 就職できる日本語力について
３．学会等名 Japanese Language Learning for New Generations
４．発表年 2018年

１．発表者名 袴田麻里・鈴木加奈子
２．発表標題 日本語教育と就職支援の連携
３．学会等名 第31回日本語教育連絡会議
４．発表年 2018年

１．発表者名 ライアン優子
２．発表標題 Career preference of International students on STEM Master’s program: A case study of English taught program at a University in Japan
３．学会等名 日本キャリア教育学会第39回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 袴田麻里
２．発表標題 日本企業から内定を得た留学生の就職に対する意識－３月卒業生と９月卒業生の比較から－
３．学会等名 日本語教育連絡会議
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 袴田麻里（高丸 理香、宇賀田 栄次、原田 いづみ編）	４．発行年 2021年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 234
３．書名 大学生として学ぶ 自分らしさとキャリアデザイン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	袴田　麻里 (Hakamata Mari) (20334964)	静岡大学・国際連携推進機構・教授 (13801)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関